

(様式2)

校 種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	6 5	学校名	宇都宮市立 田原小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	-------------

令和7年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・とちぎっ子学習状況調査、全国学力テスト、学習内容定着度調査において、県や市の平均と比較するといずれも同じ程度か下回る結果であった。学年によっては、全教科とも大きく下回る結果となっている。児童自ら学ぶ意欲を育て、学習内容の確実な定着や理解の深化を図ることが、最優先の課題である。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の質問に対する児童の肯定的割合は、全学年が市の平均を上回っており、100%の学年も多い。宿題等はきちんと提出している児童が多く、自主学習も発達段階に応じて取り組んでいることから、前向きに学習に取り組もうとする児童が多いことが分かる
- ・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」や「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる」の質問に対する肯定割合は、下回る学年も複数ある。意欲的に考えることができて、表現したり意見を交流することには消極的になったり、苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・全体的に明るく伸び伸びとしていて素直である。授業へも真面目に前向きに取り組もうとする児童が多い。
- ・他者との関わりの中で、自分の考えを広めたり深めたりすることを苦手と感じている児童も見られる。

2 今年度の重点目標

わかった！できた！もっとやりたい！わくわくする学びのサイクル
学びのプロジェクト（児童自身が『学びの主体』になる授業作り）

- ・児童の学習状況を的確に分析・把握することにより、個々の学習課題及び学年・学校課題を設定し、「田原っ子の学び」の実践、教師の専門性を生かした教科担任制、少人数指導の充実を通して、基礎・基本の確実な習得と活用及び主体的に学ぶ態度の育成を図る。
- ・読解力や思考力・表現力の育成を目指し、問題解決的な学習や協働的な学習活動、言語活動等、カリキュラム・マネジメントを通じた教科横断的な学習活動の充実を図る。

- ・宮・未来キャリア・パスポート」を有効に活用することで、児童が自己の変容や成長を実感し、新たな夢や目標につなげたり将来の生き方を考えたりすることができるようにし、主体的に学びに向かう力や自己管理能力の育成を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究体制を整備し、教職員の授業力・コーディネート力の向上を目指し、PDCA サイクルによる積極的な授業改善を図る。

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和7年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1） 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 教材や言語活動を充実させた授業展開の工夫をし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行う。
- 「田原小学習のやくそく」を配付し、話の聞き方、発表の仕方など、基本的な学習態度の定着を図る。（通年）
- ・朝の学習時間（火・木・金曜日 8:10～8:25）を「基礎学習の時間」とし、火曜日を国語の日、木曜日を算数の日、金曜日を学級裁量の日（視写、読解ドリル等）に設定し、学校全体でこの時間を有効に使うようにする。
- ★児童の資質や能力の把握に努め、個別指導や少人数指導、習熟度別指導、TT、専門性を生かした教科担任制、かがやきルームの活用、学年内交換授業等の推進により指導の充実を図る。
- 各教科において文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを深める学習の場を設定し、授業改善を図る。
- 児童相互の学び合いの場等で、自分の意見を話したり、友達の考えを聞いたりする活動を取り入れ、協動的に課題解決する時間を確保した授業を実践する。
- 単元や一授業の導入では、学ぶことに興味や関心を持たせるような教材や言語活動の工夫をする。課題解決の場面では、見通しを立てたり、教師による例示を行ったり、新たに発展的な課題を設定したりして、粘り強く取り組むことができるようにする。終末では、自己の学習活動を振り返り、次につなげることができるようにする。

（2） G I G A スクール構想

- 1人1台端末を利用した個別最適な学びと一人一人に応じた探究的・協働的な学びの実現を目指す。各学年の発達段階や実態に応じた個々のデジタル機器の効果的な活用や学習データの効果的な活用を探りながら、質の高い学びの実現を図る。

（3） 家庭学習の定着

- 学年の発達段階に応じて宿題の出し方や内容を工夫し、適切な分量（低学年20分、中学年40分、高学年60分「スタンダードダイアリーより抜粋」）で学習したり、1人1台端末を活用しながら、家庭学習の習慣の定着を図る。（通年）

- ・ 単元や学期ごとに復習する機会や学年末のまとめの時間を設けたり、家庭学習強化週間で漢字・計算オリンピックを実施したりして、各学年で身に付けるべき基礎・基本を確実に習得させる。
 - ・ 「家庭学習のすすめ」「自主学習のすすめ」を各家庭に配付し、児童・保護者に啓発する。
 - ・ 学習した内容をきちんと習得するには、繰り返し練習したり、授業で習ったことをその日のうちに復習したりする必要性があることを児童に示し、家庭学習の習慣化と充実を図る。
- ★年間2回校内読書週間を実施するとともに、毎月第3土曜日に家読の日に設定して、読書の奨励に努める。